

# 歴史書 通信

1

2020 No. 247

The MID-PACIFIC MAGAZINE  
and the  
BULLETIN OF THE PAN-PACIFIC UNION



Viscount Shibuzawa, representative in Japan of the Pan-Pacific Commercial Conference.

『論語と算盤』から、  
さらにその向こうへ [飯森明子]  
歴史書新刊ニュース (11・12月)  
歴史書以外の人文社会図書  
新刊案内 (11・12月)  
会員社刊行の2019年度受賞図書  
2019年歴史書懇話会研修旅行記

歴史書懇話会

# 『論語と算盤』から、 さらにその向こうへ

飯 森 明 子

(渋沢研究会運営委員)

## ・渋沢ブームの到来か？

2019年は渋沢栄一という名前が一挙に脚光を浴びた年であった。4月には2024年から新1万円札に渋沢栄一の肖像が使われるニュースが飛び込んだ。9月には2021年NHK大河ドラマの主人公が渋沢栄一となることが発表された。以来、ブームにあやかるように様々な渋沢栄一関連書籍が書店の店頭を賑わしている。書店の書棚にも、『渋沢栄一と「フィランソロピー」』シリーズが並ぶようになった。全8巻刊行予定のうち、すでに第1巻『渋沢栄一は漢学とどう関わったか』、第2巻『帰一協会の挑戦と渋沢栄一』が刊行され、2019年秋、3番目の刊行となったのが拙編著の第5巻『国際交流に託した渋沢栄一の望み——「民」による平和と共存の模索』である。2016年から10人の研究者が何度も研究会や合宿に集まり、報告と討論を重ね、その成果の刊行がこのタイミングとなった。

まもなく、地域振興、福祉、教育、宗教、文化財をテーマとした続刊が刊行される。多くの原稿がすでに執筆中、

または修正段階にあるが、渋沢ブームに乗って書かれたわけではないことは、歴史好きの読者なら手に取ってすぐご理解いただけると思う。

## ・渋沢栄一の新しい研究視点とは？

渋沢栄一は近代日本の資本主義システムを作った人物としてよく知られている。会社の設立・経営だけでも約500社に関与した。それ故、これまでの研究の多くは経営者、実業家としての渋沢について、経済史や経営史の視点から語られてきた。また確かに『論語と算盤』という訓話集にみられるように、渋沢の経営倫理や経営思想は多くの会社経営者や人々に長く影響を与え、今またこの視点から注目されている。

だが、渋沢の人生は幕末の動乱を生き抜いた会社経営者としてだけではない。明治の終わりごろから徐々に、渋沢は企業経営から退き始めた一方で、その前後から様々な社会事業に関わることが以前にも増していく。その数、『渋沢栄一伝記資料』に掲載されている項目だけでも600を超える。

これまで渋沢の関わった社会事業や社会貢献について、断片的個別的に多々研究されてきたが、渋沢の多様な社会貢献活動に関する言動や思考について、数年前からもう少し広い視野と学際的な方法で新しい研究成果を提示しようと試みることになった。渋沢の顕彰が目的ではなく、実証的に渋沢を論じ、時には同時代の人々と比較しながら、渋沢の活動意義を改めて広く考えようとしている。また渋沢の社会事業・社会貢献が非常に広範な分野にわたることから、アメリカで頻用される宗教的ニュアンスを含むフィランソロピーに意味を限定せず、カッコをつけて渋沢流の「フィランソロピー」と示すこととした。

ところで、筆者が研究会に出席を始めてまず驚いたことは、渋沢の多種多様な社会事業に対する熱心な関与・参画であった。テーマを問わず総じて言えるのは、次の3つの特徴であろう。まず渋沢の農民の身分、藍玉行商の経験、一橋家の武士として、また徳川慶喜の弟徳川昭武に同行した欧州渡航とフランスでの生活など、幕末以来のさまざま地域での生活や国家、政治体制の豊富な経験である。次に、活動を組織化し継続させる財政や会計の知識の活用である。さらには組織や活動の意義を理解し、それを認識共有する人材養成、活動を拡大する人脈と情報発信ということになるだろうか。これらの渋沢の言動や思想を含めて広く「フィ

ランソロピー」ととらえたいと思う。

だからと言って、現代の日本でかまびすしいほどの企業の社会貢献やCSRについて師として渋沢を語ろうとしているわけではない。歴史研究の一端から広く現代社会との関連や課題を考えていただければありがたいというのが、我々編者や執筆者の願いである。

#### ・渋沢にとって国際交流とは？

恥ずかしながら筆者は、渋沢という偉大な経営者にそもそもの関心があったこのテーマに入り込んだのではない。戦前日本外交や国際関係の歴史の文脈のなかで国際交流に関する研究を続けていたら、交流組織や事業のそこかしこに渋沢が関与していたのである。それゆえに他の活動者との関係やリーダーシップのあり方、人脈作りなども政治外交の背景も併せて絶えず気にかけていた。また多くの戦前の日本人にありがちな東洋か西洋か、どちらかに渋沢が明確に偏向することもないことにも関心を持った。

とくに明治の近代日本を築いたトップリーダーの多くは旧武士層出身であったから、伝統的な秩序維持や名誉を重視する価値観が抜けきらないままの社会が20世紀に入っても残っていた。そのなかで、第一次大戦後の渋沢の言動には、実業家として経済発展と自由貿易とを重視する姿勢だけでなく、多国間連携、さらには人道援助

など「いのち」や人間の尊重が相互理解活動からみられる。それらは折から第一次世界大戦の総力戦で疲弊した欧州から拡がり始めた新しい多様な考え方やグローバリゼーションの動きとも呼応する。しかも、しばしば日本政府や「官」に先んじて「民」の立場から、利益の損得ではなく、渋沢は活動を実践し支援した。とするなら、20世紀に入り複雑化する多国間の国際関係のなかに渋沢を位置付けることができるのではないか。そして、現代の類似した課題に渋沢はどう対応したか、そこから我々は学ぶことはありそうに思われる。

#### ・災害という禍を福に転じられるか

ここでは筆者が担当した部分から2つの例を取り上げよう。

渋沢の故郷、埼玉県深谷市は利根川の中流域右岸にある。生家のある血洗島という地名からも、水に深い縁があることがわかって。渋沢は故郷の洪水を直接体験していないが、村の古老たちから渋沢が生まれる少し前の洪水の話は聞いていたに違いない。あるいは、明治末期の東京大洪水や大正末の関東大震災では渋沢も自ら被災しつつ、同時に積極的な支援活動を行った。このような災害の体験は、貿易相手国に対する儀礼というよりも、被災した人々の窮状を理解した共感の表出となって、海を越えた災害支援にもあらわれる。

たとえば1931年夏から秋、中国を

襲った大洪水に対する渋沢の支援への熱意は、日本政府や陸軍の満州での行動と対照的である。不安定な中国の内政や日中関係はどうであろうと、洪水に苦しむ人々に日本の「民」からの支援を少しでも届けようと、渋沢はラジオを通して義援金を呼び掛けた。しかし支援物資と義援金を乗せた船が日本を出港直後に満州事変が勃発、中国は支援を一切拒否し、物資も義援金も被災した人々に届くことはなかった。

いまもお消えない国際社会の地域紛争と、発展途上地域の大災害は貧困に拍車をかける。渋沢の経験から、人道と国際政治の間で「支援」活動について改めて考えたい。

#### ・環太平洋ネットワークは可能か

数年前、環太平洋パートナーシップ（TPP）が大きな話題になったが、環太平洋諸国間の連携や多国間合意形成の難しさがむしろ浮き彫りになったことは記憶に新しい。しかし約100年前、すでに環太平洋諸国諸地域間での相互理解と連携協力を目指した組織があった。有名なのは、渋沢も積極的に支援した太平洋問題調査会（IPR）であろう。片桐庸夫氏や山岡道男氏など国内外研究者による研究がすすめられ、第二次世界大戦前後の知的グループによる非政府国際組織の相互理解活動はよく知られている。

そのIPRの設立前に、汎太平洋連盟 Pan-Pacific Union（PPU）がハワイ

で作られ、渋沢は1920年に設立された日本側組織のリーダーの一人として関与していた。ここに掲載した写真はPPUの機関誌、“*The Mid-Pacific Magazine*” 1922年1月号の表紙である。日本人で同誌の表紙に掲げられたのは原敬、渋沢と徳川家達の3人だけである。なかでも渋沢の記事は同誌に何度も掲載され、渋沢の名前はハワイやアメリカを中心に、環太平洋地域に知られるようになっていた。だが、PPUには設立当初から米国、英連邦、日本をはじめ、各国政府と国内事情、植民地域における支部活動、官民エリート中心の組織や講演活動には困難が山積し続けた。グローバリズムに挑戦したPPUの活動と経験は、現代だからこそ再考する意義があると思われる。

・『論語と算盤』から、さらにその向こうへ

たしかに渋沢の行動の根底には、幼いころから親しんでいた漢学の思想が浸透しており、その精神が渋沢の多くの会社設立や経営にも受け継がれていることは間違いない。『論語と算

盤』が編まれたのが1916年のことだが、第5巻で扱った渋沢の国際交流の多くはその前後から後の時代を扱っている。

それらは必ずしも順風満帆ではない。また第一次世界大戦後の新しい国際秩序や価値観が登場するなか、海外での渋沢の評価や、当時の海外の政情や国内の時代的制約、政治や社会的ルールの限界も考慮しなければならない。それでも水戸学の排外主義の考え方を脱した渋沢は、異文化も人種の違いも国境も超えて、お互いを尊敬し、会談し、訪問し、相手を理解することをめざした。すなわち渋沢の人間の多様性を認め、相手を尊重する相互理解活動が、経済活動や様々な社会貢献につながる礎石となっている。渋沢のこのグローバルな「フィランソロピー」の実践こそが、平和で安定した国際社会を作り、人々が共に生きることができると、我々に伝えている。

〈表紙写真〉

*The Mid-Pacific Magazine* (Jan, 1922) の表紙 〈所蔵：ハワイ大学〉

# 新刊ニュース

11・12月の新刊 \*発売予定のものもあります

## 歴史一般 事典／年表・地図／歴史学・補助学

ダン・ストーン著／上村忠男 編訳

### 野蛮のハーモニイ

ホロコースト史学論集

四六判 296頁 5,600円

みずす書房 [11月刊]

旧東側文書館の開放により、全欧州的規模の現象としてホロコーストの見直しが進んだ。歴史を書く・語る行為の方法論と思想史の最前線。

978-4-622-08855-4

歴史科学協議会編

### 歴史科学の思想と運動

A 5判 608頁 10,000円

大月書店 [12月刊]

戦前日本の歴史科学の勃興期から歴史科学協議会の成立に至る歴史科学運動の歩みとその思想を象徴する資料を収録。

978-4-272-51012-2

## 考古学 概論・通史／日本／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／その他

御堂島 正著

### 黒曜岩製石器の実験痕跡研究

B 5判 328頁 11,000円

同成社 [12月刊]

人間行動や自然現象が石器に及ぼす影響を及ぼすかを具体的な実験から検証し、使用痕跡の観察するときの視点と新たな解釈の基準を提示する。

978-4-88621-829-2

小畑弘己著

### 縄文時代の植物利用と家屋害虫

圧痕法のイノベーション

B 5判 270頁 8,000円

吉川弘文館 [11月刊]

土器作成時に混入されたタネやムシの痕跡を、X線で検出する新たな研究手法を提唱。植物栽培や害虫発生のプロセスを読み解く。

978-4-642-09354-5

## 日本史 概論・通史／史料／古代／中世／近世／近代／現代／地方史

稲村榮一著

### 定家『明月記』の物語

書き留められた中世

四六判 344頁 4,800円

ミネルヴァ書房 [11月刊]

地上の激動から天空のオーロラ観察まで、読解に半生をかけた著者による『明月記』案内

978-4-623-08327-5

西沢淳男編

### 飛騨郡代豊田友直在勤日記 1

天保十一年・十二年（岩田書院史料叢刊 13）

A 5判 346頁 7,000円

岩田書院 [11月刊]

支配所であった飛騨の地誌・風俗・民俗・物産・気象・動植物や、民政・行政、家族など細やかな描写や自身の心情までを詳述。

978-4-86602-082-2

三浦正幸監修

### 復元CG 日本の城 II

B 5判 160頁 1,800円

山川出版社 [11月刊]

全国各地の城郭をCGで再現した『復元CG日本の城』第二弾。今回は安土城、紀州和歌山城、松本城城郭、仙台城櫓など25城を収録。

978-4-634-15156-7

中井 均・内堀信雄編

**東海の名城を歩く 岐阜編**

A 5判 280頁 2,500円

吉川弘文館 [11月刊]

名城60を、西濃・本濃郡、中濃・岐阜、東濃・加茂、飛騨の4地域に分けて紹介。最新の発掘成果に文献による裏付けを加える。

978-4-642-08364-5

加藤 諭著

**大学アーカイブズの成立と展開**

公文書管理と国立大学

A 5判 424頁 11,500円

吉川弘文館 [11月刊]

各国立大学の事例を挙げて成立過程を詳述。大学史編纂と文書管理制度の中に大学アーカイブズ史を位置づけ、その意義や可能性を解明。

978-4-642-03891-1

若槻真治著

**倭国軍事考**

A 5判 332頁 9,500円

塙書房 [12月刊]

律令国家形成以前の倭国の軍事活動、軍事組織、軍事思想について東アジアの視点で考察。日本的権力の本質論的把握を試みる。

978-4-8273-1307-9

河村日下著

**九州王朝の盛衰と天武天皇**

古代の地平を拓く

四六判 416頁 4,500円

ミネルヴァ書房 [12月刊]

古代史を破壊したのは誰か。大和朝廷による「削偽定実」の実態とは…『記紀』の虚構を暴く古代通史、ここに完結。

978-4-623-08724-2

中丸貴史著

**『後二条師通記』論**

平安朝〈古記録〉というテキスト（研究叢書516）

A 5判 370頁 8,500円

和泉書院 [11月刊]

院政期初頭の関白藤原師通の日記を、テキスト生成、学問および漢籍引用、論理の三側面から論じる。古記録研究の新たな視点を提供。

978-4-7576-0937-2

日本史史料研究会監修・赤坂恒明著

**「王」と呼ばれた皇族**

古代・中世皇統の末流

四六判 286頁 2,800円

吉川弘文館 [12月刊]

興世王・以仁王・忠成王など、有名・無名の「王」たちを、逸話も交えて紹介。皇族の周縁部から皇室制度史の全体像に初めて迫る。

978-4-642-08369-0

岡野浩二著

**中世地方寺院の交流と表象**

A 5判 474頁 15,000円

塙書房 [11月刊]

地方寺院の競合関係と僧侶の往来、地方と中央との「交流」と、祖師譚等の「表象」という視角から中世とその前後の時代の地方寺院を考察。

978-4-8273-1306-2

谷口克広著

**信長と家康の軍事同盟**

利害と戦略の二十一年（読みなおす日本史）

四六判 256頁 2,200円

吉川弘文館 [11月刊]

信義関係が成立しない時代に、両者の同盟は21年続いた。同盟が維持された理由と実体を解明し、天下統一につながる動きに迫る。

978-4-642-07111-6

盛本昌広著

**軍需物資から見た戦国合戦**

（読みなおす日本史）

四六判 216頁 2,200円

吉川弘文館 [12月刊]

戦国大名は、城や柵を作る木材、矢や槍の材料の竹などの物的資源をいかに調達し、森林資源の再生を試みたのか。合戦の側面を探る。

978-4-642-07112-3

五條小枝子著

**戦国大名毛利家の英才教育**

元就・隆元・輝元と妻たち（歴史文化ライブラリー492）

四六判 240頁 1,700円

吉川弘文館 [12月刊]

毛利家に関する文書から、元就・隆元・輝元の妻たちに光を当てる。家臣への心配りや婚家との架け橋など、毛利家の家族観に迫る。

978-4-642-05892-6

中村博司著

**豊臣政権の形成過程と大坂城**

（日本史研究叢刊34）

A 5判 404頁 8,500円

和泉書院 [12月刊]

豊臣政権の形成過程と大坂城の築造経過や構造を考察。秀吉の政権構想と大坂城を中心とした居城の在り方との関係性を明らかにした。

978-4-7576-0916-7

小田原城総合管理事務所編・小和田哲男監修

## 戦国大名北条氏の歴史

小田原開府五百年のあゆみ

A 5判 252頁 1,900円

吉川弘文館 [12月刊]

宗瑞（早雲）の登場から、氏康〜氏直期の周辺国との抗争・同盟、大久保・稲葉氏の時代にいたる小田原藩の歴史を、図版を交えて描く。

978-4-642-08367-6

福田千鶴著

## 城割の作法

一国一城への道程

四六判 285頁 3,000円

吉川弘文館 [12月刊]

降参の作法だった城割は、天下統一過程で大きく変容した。信長から家康に至る破城政策などを経て、「一国一城令」までの実態に迫る。

978-4-642-03497-5

幕藩研究会編

## 論集 近世国家と幕府・藩

A 5判 444頁 9,000円

岩田書院 [11月刊]

978-4-86602-087-7

岩橋清美・吉岡 孝著

## 幕末期の八王子千人同心と長州征討

A 5判 234頁 3,000円

岩田書院 [11月刊]

第二次長州征討に従軍した八王子千人同心の日記9種を分析対象とする。これらの日記を読み解くことによって、彼らの心情を探る。

978-4-86602-081-5

大濱徹也著

## 近代日本とキリスト教

四六判 192頁 2,500円

同成社 [12月刊]

維新後に再上陸し、近代日本に多大なる影響を与えたキリスト教。明治期のキリスト教の相貌を検証し、日本の近代とはいかなる世界かに迫る。

978-4-88621-834-6

GBS 実行委員会編

## 明治時代の東大寺

ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集 第17号

A 4判 152頁 2,000円

法蔵館 [11月刊]

千年以上にわたり奈良や東大寺が育んできた歴史観・価値観を一変させた宗教の近代化を多角的に捉えた好論集！

978-4-8318-0717-5

中尾俊介著

## 横浜開港場と内湾社会

(山川歴史モノグラフ37)

A 5判 336頁 5,000円

山川出版社 [11月刊]

神奈川湊と横浜開港場を事例に、日本各地の湊が近代的な港湾へ移行する過程を、都市空間および物資物流をめぐる社会構造の分析から解明する。

978-4-634-52052-3

松谷暉介著

## 日本の中国占領統治と宗教政策

日中キリスト者の協力と抵抗

A 5判 416頁 6,800円

明石書店 [11月刊]

日中戦争期における中国占領地位に対する日本の宗教政策を、キリスト教を機軸にして、政策・組織・人物の面から論じる。

978-4-7503-4931-2

青木 馨編

## A 級戦犯者の遺言

教諭師 花山信勝が聞いたお念仏

四六判 130頁 2,000円

法蔵館 [12月刊]

東条英機元首相ほか7名のA級戦犯者は、巣鴨プリズンで教諭師と出会い、念仏者となった…。花山師晩年の講演CD2枚組付。

978-4-8318-5713-2

桐山節子著

## 沖縄の基地と軍用地料問題

地域を問う女性たち

A 5判 304頁 6,800円

有志舎 [12月刊]

日常生活から基地被害を考え、経済的な権利、地域の政治に参加する権利として軍用地料問題をとらえ直した女性たちの闘い。

978-4-908672-35-4

飯澤文夫編

## 地方史文献年鑑 2018

(郷土史研究雑誌目次総覧22)

A 5判 658頁 25,800円

岩田書院 [10月刊]

2018年に発行された地方史研究雑誌1591誌を、都道府県別に収録し、目次を紹介。巻末に「雑誌名索引」を付す。

978-4-86602-083-9



## 世界史

概論・通史／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／オセアニア

向嶋成美編著

## 李白と杜甫の事典

A 5判 914頁 12,000円

大修館書店 [11月刊]

唐を代表する二大詩人、李白と杜甫の総合事典。250篇を超える詩文の解説を主に、李杜の生涯や旅について紹介する。付録資料も充実。

978-4-469-03216-1

狩野直禎著

## 「三国志」の知恵

四六判 219頁 1,800円

法蔵館 [11月刊]

「正史」「演義」のどちらにも偏らない三国志世界を俯瞰し、乱世を生き抜いた英雄たちの知恵に学ぶ恰好の三国志入門書。解説は井波律子氏。

978-4-8318-7732-1

廉復圭著、橋本妹里訳

## ソウルの起源 京城の誕生

1910～1945 植民地統治下の都市計画

A 5判 362頁 4,800円

明石書店 [12月刊]

植民地の首都京城の都市計画を取り上げ、その内容を豊富な資料や図版を駆使して解明し、朝鮮における日本の植民地統治の実態に迫る。

978-4-7503-4919-0

伊藤雅之著

## 第一次マケドニア戦争とローマ・ヘレニズム諸国の外交

(山川歴史モノグラフ38)

A 5判 376頁 5,000円

山川出版社 [11月刊]

古代ローマやヘレニズム諸国がどのように外交を展開したのか。古代ギリシア国家アイトリア連邦の石碑や碑文文書を多く取り上げながら論じる。

978-4-634-67394-6

中岡義介、川西尋子著

## ブラジルの都市の歴史

(世界歴史叢書)

四六判 380頁 3,800円

明石書店 [12月刊]

ブラジルの歴史を都市の成り立ちから読み解く。植民地時代から現代までに作られた歴史的に特徴のある都市を、現地調査を基に分析。

978-4-7503-4937-4

## 文化史

文化史一般／政治・外交・経済／思想・宗教／  
教育・科学／文学・美術・芸術／社会生活

木村茂光・安田常雄・白川部達夫・宮瀧交二著

## モノのはじまりを知る事典

生活用品と暮らしの歴史

四六判 272頁 2,600円

吉川弘文館 [12月刊]

私たちの生活に身近なモノの誕生と変化、名前の由来、発明者などを通史的に解説。理解を助ける図版や索引を収め、調べ学習にも最適。

978-4-642-08368-3

小林 忠著

## 浮世絵

(日本の伝統文化②)

四六判 216頁 3,200円

山川出版社 [11月刊]

江戸時代、町人の美術として生まれた浮世絵。その発生に至る過程と、美術としての構造と特質について代表的な作品を例示しながら詳述。

978-4-634-21302-9

矢嶋 光著

## 芦田均と日本外交

連盟外交から日米同盟へ

A 5判 334頁 9,000円

吉川弘文館 [11月刊]

外交官時代の経験で得た国際政治観と敗戦までの変化など、彼の再軍備論を内在的に分析。戦後日本の外交路線形成と対立の諸相を考察。

978-4-642-03890-4

山村陸夫著

## 上海日本人居留民社会の形成と展開

日本資本の進出と経済団体

A 5判 576頁 10,000円

大月書店 [12月刊]

日本が資本進出先とした上海。重層的な構造を持つその日本人居留民社会を明治から敗戦後の解体期まで膨大な資料から描きとおす。

978-4-272-52115-9

天田顕徳著

## 現代修験道の宗教社会学

山岳信仰の聖地「吉野・熊野」の観光化と文化資源化

A 5判 227頁 4,800円

岩田書院 [9月刊]

修験道の担い手の変容と、文化財化・文化遺産化の推進という現象に光を当てながら、現代における修験道の変化の内実に光を当てる。

978-4-86602-085-3

堀池信夫著

## 老子注釈史の研究

(桜邑文稿1)

A 5判 536頁 8,000円

明治書院 [11月刊]

著作集1。「老子」注釈史・解釈史に関する論文を集成。「桜邑」は研究拠点の筑波大学が茨城県新治郡桜村にあったことにちなむ。

978-4-625-46403-4

衣川 仁著

## 神仏と中世人

宗教をめぐるホンネとタテマエ (歴史文化ライブラリー 491)

四六判 224頁 1,700円

吉川弘文館 [11月刊]

中世人は神仏にいかに依存し、どう利用したか。期待と実際とのズレから民衆の内面に迫り、現代の「無宗教」を考える手掛りを提示。

978-4-642-05891-9

榊原千鶴著

## 皇后になるということ

美子と明治と教育と

四六判 242頁 2,300円

三弥井書店 [12月刊]

皇后美子(昭憲皇太后)に向けて行われた皇后教育、さらに彼女が命じて編纂させた女性教育のための道徳書を手掛かりに明治の女性教育を言及。

978-4-8382-3357-1

久保田 淳著

## 藤原俊成 中世和歌の先導者

四六判 512頁 3,800円

吉川弘文館 [12月刊]

新古今時代の代表的歌人。後白河法皇の院宣で千載和歌集を撰進、古来風鉢抄を献じた。後継者定家を育て、冷泉家の基礎を築いた生涯。

978-4-642-08529-8

芳賀紀雄監修／鉄野昌弘・奥村和美編

## 萬葉集研究 第39集

A 5判 396頁 12,500円

埴書房 [12月刊]

萬葉集研究の最先端。毎年1冊刊行。[執筆著]山口佳紀／蜂矢真郷／野村剛史／小柳智一／瀬間正之／安藤信廣／品田悦一／松田聡／鉄野昌弘

978-4-8273-0539-5

海野 聡編

## 文化遺産と〈復元学〉

遺跡・建築・庭園復元の理論と実践

A 5判 344頁 4,800円

吉川弘文館 [11月刊]

古代～現代における国内外の遺跡や建物、庭園、美術品の復元を検討。保存・活用が求められるなかで、復元の目的や実情、課題に迫る。

978-4-642-01662-9

坂本 要編

## 東国の祇園祭礼

茨城県霞ヶ浦周辺地域を中心に

A 5判 490頁 11,000円

岩田書院 [12月刊]

オハケ、籠り屋、七度半の儀礼、稚児儀礼など、中世祭祀を思わせるような儀礼を色濃く残す霞ヶ浦周辺地区を20数年調査してきた成果。

978-4-86602-086-0

伊藤慎吾・飯倉義之・広川英一郎著

## 怪人熊楠、妖怪を語る

B 5判 126頁 2,300円

三弥井書店 [8月刊]

怪異・妖怪の正体を自然科学の視点で解明を試みた南方熊楠の妖怪学と人物像に迫り、熊楠が見出した妖怪と怪異現象を紹介する。

978-4-8382-3354-0

板垣俊一著

## 花儿会与歌垣

辺境の歌文化

A 5判 316頁 7,900円

三弥井書店 [9月刊]

花儿とは中国の西北部に広く歌われている歌謡。実地調査から、漢語による男女の歌の掛けあいを明らかにし、古代ヤマトの歌垣と比較。

978-4-8382-3353-3

**伝記**

森 公章著  
**阿倍仲麻呂**

(人物叢書 298)  
四六判 256 頁 2,100 円

吉川弘文館 [11 月刊]

奈良時代の遣唐留学生。玄宗皇帝の側近として出世し、唐で客死する。特異な境遇を冷静に見つめ、日唐関係史のなかに位置づける。

978-4-642-05291-7

酒井紀美著  
**経 覚**

(人物叢書 299)  
四六判 328 頁 2,300 円

吉川弘文館 [12 月刊]

興福寺大乘院門跡として大和国支配に力を注ぐが、2度の没落を経験する。応仁の乱を記録した『経覚私要鈔』から波瀾の生涯を追う。

978-4-642-05292-4

諏訪勝則著  
**明智光秀の生涯**

(歴史文化ライブラリー 490)  
四六判 256 頁 1,800 円

吉川弘文館 [11 月刊]

連歌や茶道にも長け、織田家中随一の重臣に上り詰めながら、なぜ主君を襲撃したのか。謀反の真相に新見解を示し、人間像に迫る。

978-4-642-05890-2

山田康弘著  
**足利義輝・義昭**

(ミネルヴァ日本評伝選)  
四六判 404 頁 3,200 円

ミネルヴァ書房 [12 月刊]

滅びゆく将軍家を救うべく、戦国末、二人の男が剣を取った。知られざる二人の「生きざま」を、平易な文章で明快に描き出す。

978-4-623-08791-4

奥 武則著  
**黒岩涙香**

(ミネルヴァ日本評伝選)  
四六判 456 頁 3,800 円

ミネルヴァ書房 [11 月刊]

『萬朝報』の栄光と没落… 大衆を見据えた明治の新聞王。

978-4-623-08750-1

**雑誌**

**日本歴史**

日本歴史学会編集

12月号(第859) = 11月刊  
2020年1月号(第860) = 12月刊

日本史専門の月刊誌として、また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、研究者から一般社会人まで、幅広い各層が購読。

一年間直接購読料 8,600 円 [税・送料込]

◆各種割引制度有

二年間前払い 16,400 円 [税・送料込]

三年間前払い 24,000 円 [税・送料込]

学生・院生 一年間 5,000 円 [税・送料込]

A 5 判 12月号 = 130 頁、1月号 = 162 頁  
12月号 = 745 円、1月号 = 1,000 円

吉川弘文館 [11・12 月刊]

# 歴史書以外の 人文社会図書新刊案内

2019.11・12

## 明石書店

結婚と離婚 (イスラーム・ジェンダー・スタディーズ1)

長沢栄治 (監修)、森田豊子・小野仁美 (編著) ……四六判 2,500円 11月

難民との友情 難民保護という規範を問直す 山岡健次郎 編 ……四六判 3,600円 11月

## 法 藏 館

増補 いざなぎ流 祭文と儀礼 斎藤英喜 著 ……文庫判 1,500円 11月

老年の豊かさについて キケロ著・八木誠一、八木綾子 訳 ……文庫判 800円 11月

仏性とは何か 高崎直道 著 ……文庫判 1,200円 11月

新装版 教行信証 星野元豊 著 ……四六判 1,800円 12月

# 会員社刊行の2019年受賞図書

## 【第23回（2019年度）国際開発研究大来賞】

### サバンナのジェンダー

友松夕香著……………A 5判 5,000円 明石書店  
国際開発分野における研究の奨励を目的に、国際開発の様々な課題に関する優れた指針を示す研究図書を顕彰することを目的とした賞。

## 【第9回 日本考古学協会 大賞】

### 東北アジアの初期農耕と弥生の起源

宮本一夫著……………B 5判 10,000円 同成社  
考古学上の業績および関連諸分野における考古学関係の業績を賞するもので、協会および考古学研究の活性化、考古学の啓発と普及、人材の育成、社会貢献を目的とする賞。

## 【第62回 日経・経済図書文化賞】

### 近世畿内の豪農経営と藩政

萬代 悠著……………A 5判 12,000円 塙書房  
日本経済新聞社と日本経済研究センターが、経済および経営・会計分野の学問、知識の向上に貢献すると共に、その一般普及・応用に寄与することを目的として設立した賞。

## 【第12回 地域社会学会賞】

遺跡から「聖地」へ 前島訓子著……………A 5判 4,800円 法蔵館  
地域社会学をはじめ広く地域社会研究において優れた成果をあげた会員に対して、これを顕彰し、学会活動のさらなる発展に寄与することを目的とした賞。

## 【第7回 日本南アジア学会賞】

ポスト・アンベードカルの民族誌 根本 達著……………A 5判 5,000円 法蔵館  
日本南アジア学会賞は、南アジアに関する研究の奨励を目的として、若手研究者を対象に設けられた賞。

## 【第53回 仏教伝道文化賞】

わたしの浄土真宗 藤田徹文著……………四六判 1,800円 法蔵館  
昭和42年に仏教伝道協会によって制定され、国内外を問わず、仏教関連の研究や論文、美術や音楽、仏教精神を基に活動する実践者など、幅広い分野にて仏教精神と仏教文化の振興、発展に貢献された方がたの、その労に感謝し讃えることを目的とした賞。

**【第53回 仏教伝道文化賞 沼田奨励賞】**

野間宏文学と親鸞 森村森鳳(張偉)著…………… A 5判 7,000円 法藏館

昭和42年に仏教伝道協会によって制定され、国内外を問わず、仏教関連の研究や論文、美術や音楽、仏教精神を基に活動する実践者など、幅広い分野にて仏教精神と仏教文化の振興、発展に貢献された方がたの、その労に感謝し讃えることを目的とした賞。

**【第25回 連合駿台会学術賞】**

社会凝集力の日中比較社会学 鍾家新著…………… A 5判 3,500円 ミネルヴァ書房

明治大学校友の親睦団体である連合駿台会が、明治大学教員らによる学術研究上の特に優れた成果を表彰することを目的とした賞。

**【第14回(2018年度)平塚らいてう賞 顕彰】**

妻の就労で夫婦関係はいかに変化するのか

三具淳子著…………… A 5判 5,000円 ミネルヴァ書房

男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に光を当てること、ならびに若い世代に対して平塚らいてう氏の遺志を継承していくことを目的とした賞。

**【2018年度 公益事業学会奨励賞】**

鉄道トンネル火災事故の検証 吉田裕著…………… A 5判 5,800円 ミネルヴァ書房

公益事業研究の奨励に資するために設けられた賞。うち「奨励賞」は若手会員の研究奨励を目的とする。

**【2018年度 日本ホスピタリティ・マネジメント学会「振興賞」】**

障害者福祉サービス従事者におけるホスピタリティ意識の形成

星野晴彦著…………… A 5判 7,000円 ミネルヴァ書房

ホスピタリティ概念を基盤にしたホスピタリティ・マネジメントに関し、学会および社会の発展、普及に貢献した学術振興賞にふさわしいプロジェクトまたは優秀な実務者に贈られる賞。

**【第5回 福祉社会学会・学会賞(奨励賞)】**

社会的企業への新しい見方 米澤旦著…………… A 5判 5,800円 ミネルヴァ書房

福祉社会学研究の一層の発展のために、優れた研究業績を発表した会員を表彰する。うち奨励賞は、優れた著書あるいは論文を発表した会員に贈られる。

**【第11回(2018年)昭和女子大学女性文化研究賞】**

電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか

石井香江著…………… A 5判 6,500円 ミネルヴァ書房

日本語で書かれた男女共同参画社会形成の推進に寄与する研究、または女性文化研究の発展に寄与する研究に贈られる賞。

## 【2019年度 日本商業学会奨励賞】

## 値共創時代におけるマーケティングの可能性

川口高弘著……………A 5判 5,000円 ミネルヴァ書房  
 将来の研究の一層の発展を期待させる会員の業績(著書、共著および論文)に贈られる賞。

## 【第44回 交通図書賞】

鉄道トンネル火災事故の検証 吉田 裕著……………A 5判 5,800円 ミネルヴァ書房  
 交通に関する優秀図書を選定、推奨することにより交通知識の普及と交通関係者の教養の向上に資するものに贈られる。「経済・経営」、「技術」、「歴史」及び「一般」の4部門がある。

## 【2019年度 スポーツとジェンダー学会賞(論文賞)】

## よくわかるスポーツとジェンダー

飯田貴子・熊安貴美江・來田享子編著……………B 5判 2,500円 ミネルヴァ書房  
 スポーツとジェンダーに関する研究の発展を図り、スポーツとジェンダー学会会員の優れた研究成果を表彰するための賞。

## 【第42回(平成31&lt;令和元&gt;年度)労働関係図書優秀賞】

## 電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか

石井香江著……………A 5判 6,500円 ミネルヴァ書房  
 労働に関する総合的な調査研究を奨励し、労働問題に関する知識と理解を深めることを目的とする賞。

## 【令和元年度「大阪市立大学教育後援会優秀テキスト賞」】

## 政治学入門

永井史男・水島治郎・品田 裕編著……………A 5判 3,000円 ミネルヴァ書房  
 大阪市立大学教育後援会から本学の教育レベル向上に寄与した教員に贈られる賞のうち、優れた教科書を出版した教員に贈られる賞。

## 【2019年度 国際開発学会賞選考委員会特別賞】

## 青年海外協力隊は何をもたらしたか

岡部恭宜編著……………A 5判 4,500円 ミネルヴァ書房  
 会員の研究を奨励し、研究成果の顕彰並びに広報を目的として設けられた賞。「賞選考委員会特別賞」は「学会賞」「奨励賞」以外に特に顕彰すべき作品があった場合に授与される。

## 【2019年度 政治経済学・経済史学会賞】

## 町村「自治」と明治国家——地方行財政の歴史的意義

中西啓太著……………A 5判 5,000円 山川出版社  
 政治経済学・経済史学の研究を奨励するために、特に優れた研究業績を発表した会員を表彰する。

**【第17回 徳川賞】**

近世武家社会の奥向構造 ——江戸城・大名武家屋敷の女性と職制

福田千鶴著……………A5判 10,000円 吉川弘文館  
日本近世に関する研究を積極的に奨励し支援する目的で、すぐれた研究著書に送られる。  
(公財 徳川記念財団)

**【第40回 熊日出版文化賞】**

細川忠利 ——ポスト戦国世代の国づくり 稲葉継陽著……………四六判 1,800円 吉川弘文館  
熊本県内の個人・団体の優れた著作を毎年顕彰する。(熊本日日新聞社)

**【第29回 高知出版学術賞 特別賞】**

龍馬暗殺 桐野作人著……………四六判 1,800円 吉川弘文館  
当該年における最も優れた学術出版を顕彰することによって、学術研究の振興を図り、  
県勢の進展に資することを目的とする。(公財 高知市文化振興事業団)



被災された方々に慎んでお見舞い申し上げます

◆秋は各種学会のシーズンなのですが、台風のシーズンでもあります。前回のニュースで15号の話を取り上げたばかりでしたが、10月12日に列島を通過した19号は、やはり「最大級の」という枕詞をまとして襲来、予想にたがわぬ甚大な被害を列島全域に与え去ってゆきました。おりしも歴懇各社の営業部隊は龍谷大学で行われる日本史研究会大会での販売のため京都に集結。大会は12、13両日開催の予定でしたが、12日は当日早朝に中止が決定。新幹線はもちろん止まっていたし、本来くる予定だった方もこられないのしょうから、まあ仕方がないのかなと諦めておりましたが、それでもなんと翌13日は決行となり、研究会会員の方々をはじめ、運営スタッフや販売業者らが早朝から集まり形を整え大会がスタート。すでに東日本の壮絶な被害は伝えられていましたので、「よく成立したなあ」と思わずにはいられませんでした。学会に関わる方々の熱意に脱帽しつつ、無事仕事を終え各自帰路につきました。

◆そんな経験から帰京してしばらくのち、近所に住む小学5年生の友人がわが家に遊びにきて、台風のおそろしさをひとしきり語り合った折。彼の今夏もっとも気に入った映画が、まさに日本列島大水害という内容だったということで、映画のタイトルが『天気の子』。その映画のことはさすがに私も知っているよと話すと、その友人(小5)は「なんだRKまだ見てないの? おれもうこの映画4回も見ただ。まだやってみるしお前も見てこいよ。おもしろいぜ」(なぜか彼は私に話しかけるときの基本呼び捨てか、二人称の場合でも“お前”)と熱心に勧めるので、「うーん」と思いながらも行ってまいりました。友人から細部までしっかりネタバレされてからの鑑賞だったのでストーリーはすでに味気ないものになっていましたが、見終わってみるとなるほど東京沈没。彼が現実世界でもあり得るのだと興奮する気持ちもわからないではないのですが、現実とごっちゃになってしまうのはいかがなものか……。などという話を版元の営業仲間と酒を飲みながらヤイヤやっている、「いやRKさんそれはちがう。あのレベルの天候異常は地球レベルの歴史でいえばめずらしい話じゃない。縄文海進って知ってます? 関東平野なんてほとんど海の中だったんですよ? あの映画は縄文の世界観とリンクしているんですよ!」。なるほど。歴史とはかくも日常のすぐ隣にあり、あらためて歴史を学ぶことの重要性を確認した次第です。しかしまあ、できれば実証的な、研究を生業とする歴史家の描いたものから学んでほしい、かな。

◆さて、月代わりで開催されている連続ミニフェア「歴史書懇話会・今月のオススメ」は、ひきつづき次の5書店で開催されています(カッコ内はフェア開始の日付)。◇天童市TENDO八文字屋(2006年7月～)／◇新潟紀伊國屋書店新潟店(2007年8月～)◇松江市今井書店グループセンター店(2008年6月～)／◇大阪市喜久屋書店阿倍野店(2013年11月～)／◇出雲市今井書店出雲店(2014年7月～)。会員各社が厳選した、旬な歴史書を展開しています。お近くの方はぜひ足をお運びくださいませ。(RK)

# 2019年歴史書懇話会研修旅行記

## 北海道

工藤龍平

(同成社)

前年度、歴史書懇話会は創立50周年の節目を迎え、関連事業が重なったこともあり研修旅行は延期されていた。2019年は2年ぶりの開催である。歴懇としては8年ぶりの上陸となる北海道を訪問地とし、9月19日～21日、2泊3日の行程で行われた。参加者は会員社から11名、また販売会社の2名をお招きし、総勢13名での研修旅行となった。

初日、早朝から羽田空港に集合し空路で道内へ。新千歳空港で電車に乗り換えまずは札幌を目指す。正午に札幌駅へ到着し、荷物をホテルに預け食事をとり、休憩もそこそこに書店行脚に出発する。

再開発により美しく整えられた札幌駅前の広場を足早に過ぎ、まずは紀伊國屋書店札幌本店へ向かう。駅前ビルの一角で、広い敷地に大人の目線高の棚が並び、デザインされた店内空間はその広さを際立たせる。平日の昼という時間であったが客足は多い。2階にある歴史書棚に向かうと担当の林下さんが出迎えてくださり、「人文関係ではやはり郷土関連本の回転率が高い」というお話をうかがった。この傾向は

今回、そのほかの訪問先でも同様のところが多く、郷土本はこの研修での重要なキーワードとなる。郷土と歴史の親和性を踏まえれば、今後さらなる販売促進を歴懇から提案できる部分もあらうかと思われる。

次の訪問先は駅直結のビル内にある三省堂書店札幌店。ファッション系の店が目立ち、ビル全体として比較的若い世代かつ女性が多い印象で、書店フロアも同様であった。歴史書担当の工藤さんにお話をうかがい、やはりご当地本に力を入れておられるというお話の通りの棚構成であった。

駅前を離れ、徒歩で北海道大学生協に向かう。午前中は日差しも見えた空がここから次第に雨模様になり、急激に冷え込み始めた。北大生協クラーク店では歴史書担当の片岡さんに最近の学生の購買傾向などをうかがう。棚には一見なぜここに？とも思える書籍も並ぶが、目次を開くとなるほどどうなずかさされ、さすがの選書に舌を巻く。その後、北大附属図書館に足を運び、司書の児玉さんと一戸さんに選書の基準などをうかがう。選書にはあまり版元ごとの目録を利用せず、各種のジャ

ンルでまとまっている目録を利用することが多いそうだ。近年、業績の伸びている電子書籍については、それほど利用者からのリクエストがなく、現状図書館としては特別増やす予定もないということだった。ちなみに北大図書館での書籍分類法はNDCではなく、国内ではめずらしいデューイ十進分類法とのこと。最後に館内をご案内いただき、本の仕分けや管理の最新設備などを拝見する。

最後は札幌時計台を横目に丸善ジュンク堂書店札幌店へ。夕方になったせいもありレジまわりは混雑していたが、担当の西野さんに各社の現状などをご説明いただいた。情報化社会とはいえ、遠隔地ゆえか意外と新刊の案内などが漏れることも多いとのこと、最新情報の入手に腐心されているようだった。

夜は札幌市内のホテルにて、近郊の書店、大学生協、販売会社16名をお招きし懇親会が行われた。来年4月開館の国立アイヌ民族博物館や『ゴールデンカムイ』のヒットなど明るい話題もあるが、業界全体としては業績が伸び悩む中、本そのものの魅力をいかに伝えていくのかという根源的な問題意識を再確認しつつ、ざっくばらんな意見交換がなされた。

2日目、早朝からマイクロバスでホテルを出立。まだ開店前の店内を通りダイヤ書房外商部へお邪魔し、教育事業部の福田さんと鞠子さんから道内の高校図書館事情を中心にお話をうかがう。「アイヌ関係の民俗学が売れているが、以前と比べ高額本の動きが悪くなり、高校でも安いものやマンガなど入りやすいものばかりが動く傾向にある」と嘆かれていたのが印象的であっ



た。

ここから長いバス移動が増える。コーチャンフォー・ミュンヘン大橋店と同新川通り店を訪問。広い店舗内に圧倒されつつ新刊の配置状況などを確認。さらに高速にのり小樽へ。地元海産物を堪能後、喜久屋書店小樽店へ向かう。会員各社の各種シリーズものも完備できる広い棚を拝見するも、金田店長の「札幌など都市部への人口流出が止まらず、、、」というお話通り、平日午後ではあったが店舗の入っているモール全体が人影もまばらであった。自治体では地域活性化に向けさまざまな手を打っているともうかがったので、今後に期待したい。

高速をとって返し向かったのは昨年オープンの江別・蔦谷書店。ライフスタイル提案型の複合施設の一角を占める店舗は内外装に意匠を凝らし入店者を圧倒させる。書目自体は厳選されたものになっていたが、ご当地ものを中心に縄文ものや世界史ものなど、選書に明確な意図が感じらる棚であった。

ここから新千歳空港へ急行し女満別へ。夕闇の中に光る網走の湖面を横目に、湖畔のホテルへ到着。温泉で疲れを癒やしたのち、2日間の書店見学を踏まえ北海道における今後の営業活動のあり方や、ご当地ものの流通にさらなる有効な手段はないかなど、同行した皆がそれぞれの立場から発言し、白熱した議論は深夜まで及んだ。

最終日は研修をかねて2つの博物館

を見学。まず向かったのは北方民族博物館。衣類・食器・玩具などさまざまな資料から極寒の地に住む人びとの生活の知恵を学ぶ。とりわけ地元モヨロ貝塚出土品の北方世界ならではの造形美に目を奪われた。次に向かったのは博物館網走監獄。監獄としての機能部分はもちろんであるが、単に流刑地という側面だけでなく囚人たちの歴史は北海道開拓＝屯田とも密接に紐付いていることを実感した。

以上、3日間の全行程を終え帰途につく。離陸時の機窓から見た北の大地はやはり雄大で、本州とりわけ羽田から飛び立つときはまるで違うものとして目に映る。日本狭しといえどこうも違って見える世界で、出版・流通・販売は同じ形態でよいのか。きめ細かな各地のニーズに寄り添うべく、版元にてできることは何か。その答を見つけるためにも今回の研修を活かさねば、という想いを新たにした。

今回ご同道いただいた浅香健さん（日販）と森慶太さん（トーハン）のお二人とは、3日間のさまざまな場面で共に議論をさせていただきました。その過程で得たものは今後の会活動の大きな原動力になると感じています。そして末筆になりましたが、今回の訪問に貴重な時間を割いてご対応いただいた書店・生協・販売会社のみなさま、この場をお借りし改めて心より御礼申し上げます。

読み比べることで、新しい魅力が見えてくる——

# 李白と杜甫の



## 事典

向嶋成美——編著

●A5判・上製・函入・914頁  
定価=本体12,000円+税

唐を代表する二大詩人、李白と杜甫の総合事典。250篇を超える詩文の解説を主に、李杜の生涯や旅について紹介する。二人の生きた唐代の歴史や地理、政治や文化についても一章を設け、作品理解のための幅広い情報を提供する。唐詩の形式・助字用例解説・年譜・地図など、国内外の最新の研究をふまえた資料も充実した一冊。

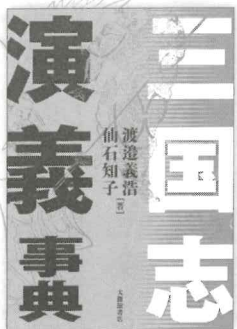
## 大修館書店

ご注文は ▶ ☎03-3868-2651 (販売部) <https://www.taishukan.co.jp>

# 三国志演義事典

渡邊義浩・  
仙石知子 [著]

『三国志演義』のすべてを凝縮した総合事典。魅力溢れる英雄たち、珠玉の名場面から、ゆかりの故事成語、漫画や映画など後世でのさまざまな受容まで網羅。演義独自の創作部分は、書体を変えて一目でわかるようになっているので、演義・正史の違いを味わうという楽しみ方も!



- 主要目次
- 第Ⅰ章 『三国志演義』の形成とその展開
  - 第Ⅱ章 英雄たちの時代
  - 第Ⅲ章 魏の人物
  - 第Ⅳ章 蜀の人物
  - 第Ⅴ章 呉の人物
  - 第Ⅵ章 後漢・西晉の人物
  - 第Ⅶ章 名場面四十選
  - 第Ⅷ章 戦いの諸相
  - 第Ⅸ章 謀略と表象
  - 第Ⅹ章 関帝信仰
  - 第Ⅺ章 資料集
  - 人名索引 / 事項索引

●A5判・376頁 定価=本体3,600円+税

大好評『三国志事典』の姉妹編!

# 日本の伝統文化

シリーズ  
全6巻

五味文彦 監修  
高荻利彦

## ① 伝統文化

496頁十カラ一口絵8頁  
四六判 本体4000円

五味文彦著 日本文化の基層となる古代、「家」型が形成された中世、それらが大成する近世——それぞれの時代と文化の関係を描き、伝統がいかにつくられたのかを探る。シリーズの総論

## ② 浮世絵

小林忠著 江戸の庶民のなかに生まれ、現在では国際的な評価と知名度を誇る浮世絵。その成り立ちと、美術としての特質について、代表的な作品を例示しながら詳述する。

216頁十カラ一口絵16頁  
四六判 本体3200円



## 秘蔵古写真 シリーズ

256頁 菊5判 各本体1800円  
日本カメラ博物館監修

## 幕末

日本カメラ博物館所蔵写真真初の書籍化。当博物館にしかない勝海舟の遣米使節団一行のすべてや、写真師が撮った幕末の貴重な写真を、人物をメインに掲載。

幕末維新の江戸から東京へと変わりゆく姿を克明に記録。大仏や建造物など当時の写真は貴重な資料。約550点掲載。

## 江戸

## 紀行

幕末から明治初期の、家並み、物売り、観光地など風景と風俗を中心に、移りゆく日本を活写する。  
《シリーズ最新刊》

## 歴史の転換期 ④

# 1187年

## 巨大信仰圏の出現

千葉敏之編 1187年のサラディンによる聖地イエルサレム奪還は、キリスト教とイスラーム教がその後別々の道を歩む分岐点となった。各地で宗教が対峙・接触・相克する中世を世界規模で考える。  
304頁 四六判 本体3500円

## 人物でわかる日本書紀

歴代天皇、后妃、有力豪族、渡来人、神々——

古川順弘著 古代史を彩る重要人物150人超を精選。複雑で壮大な「日本誕生」に関わる物語を人物から読み解く。  
304頁十カラ一口絵8頁 四六判 本体1800円

## 復元CG日本の城Ⅱ

三浦正幸監修 新たに25城のCG復元画を収録。遺構が少ない和歌山城、現在は本丸のみ残る松本城、京都清水の舞台を思わせるような仙台城など、城の復元CG画を、現況写真、解説とともに見ることが出来る。  
160頁十折込3頁 B5判 本体1800円

## 英文詳説世界史

464頁 A5判  
本体2700円

## WORLD HISTORY for High School

橋場 弦・岸本美緒・小松久男・水島 司 監修  
毎年三〇万人が読む最もスタンダードな高校世界史教科書の英訳版。学生にも、グローバル社会でも活躍するビジネスマンにも、役立つ一冊！



山川出版社

東京都千代田区内神田 1-13-13

電話 03-3293-8131 <https://www.yamakawa.co.jp/>

【価格は税別】

# モノのはじまりを知る事典

生活用品と暮らしの歴史

日本人はいつからおにぎりを食べていた？ ゴミを吸い込む掃除機が必要となった訳は？ 私たちの生活に身近なモノの誕生と変化、名前の由来、発明者などを通史的に解説。豊富な図版や索引を収め、調べ学習にも最適。2600円

木村茂光  
白田常雄著  
宮瀧交二



## 「王」と呼ばれた皇族

古代・中世皇統の末流

日本史料研究会監修・赤坂信明著 2800円  
日本の皇族の一員でありながら、これまで十分に知られることのなかった「王」。さまざまに「王」たちを、逸話も交えて紹介。皇族の周縁部から皇室制度史の全体像に初めて迫る初めての書。



## 藤原俊成 中世和歌の先導者

久保田 淳著 3800円

新古今時代の代表的歌人。多くの歌合の判者を務め、後白河法皇の信頼を受け千載和歌集を撰進。古来風林抄を執筆、後継者定家を育て、歌の家冷泉家の基礎を築く。歴史の転換期を生き抜いた九十一年の生涯。

## 経覚 (人物叢書29)

室町中期の僧侶。興福寺の大乗院門跡として大和国支配に力を注ぐが、將軍足利義教と対立する。その波瀾の生涯を描き出す。酒井紀美著 2300円

## 戦国大名北条氏の歴史

小田原開府五百年のあゆみ

小田原城総合管理事務所編・小和田哲男監修 宗瑞(早雲)の登場から、氏康(氏直)期の周辺国との抗争・同盟、大久保・稲葉氏の時代に至る小田原藩の歴史を、図版を交えて描き出す。1900円

文字は何を語るのか？ 今に生きつづける列島の古代文化

# 新しい古代史へ

全3巻

平川 南著

【全巻完結】各2500円

### 歴史文化ライブラリー

## 戦国大名毛利家の英才教育

五條小枝子著 元就・隆元と妻たち 1700円

時には夫の指示を受け、時には相談して子どもを養育に当たった妻たちは、家臣への心配りや、婚家との架け橋となるなどの役割も果たしていた。書状から見えてくる毛利家の家族観。

## 明智光秀の生涯

諏訪勝則著 1800円

## 城割の作法 一国一城への道程

福田千鶴著 3000円

戦国時代、降参の作法だった城割は、天下統一の過程で大きく変容する。信長から家康に至る破城政策、島原・天草一揆を経て、「一国一城令」となるまでの城割の実態に迫り、城郭研究に一石を投じる。

## 軍需物資から見た戦国合戦

盛本昌広著

戦国大名は、城や櫓を作る木材、矢や槍の材料の竹などの物的資源をいかに調達し、かつ森林資源の再生を試みたのか。合戦の一面面を探る。(読みをおす日本史) 2200円

## 肥前名護屋城の研究

中近世移行期の築城技法 宮武正登著 12000円

## 交通・情報となりわい

道と馬 甲斐がつないだ物資運搬や軍事に重要な役割を果たした馬や自然環境と生業を通して多民族・多文化共生の豊かな古代社会を描き出す。(最終回)

【既刊】①地域に生きる人びと 甲斐国と古代国家

②文字文化のひろがり 東国・甲斐からよむ

# 吉川弘文館

(価格税別)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-2 / ☎03-3813-9151



# 歴史手帳

2020年版 1100円

刀剣・城郭・地図など、ビジュアル付録を大増補!

# 歴史書懇話会

## ▶会員社名簿◀

### 明石書店

101-0021 千代田区外神田 6-9-5 〈担当者：川西花苗〉  
TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1174

### 同成社

102-0072 千代田区飯田橋 4-4-8 〈担当者：佐藤涼子〉  
TEL. 03-3239-1467 FAX. 03-3239-1466

### 塙書房

113-0033 文京区本郷 6-8-16 〈担当者：関口守俊〉  
TEL. 03-3812-5821 FAX. 03-3811-0617

### 法藏館

600-8153 京都市下京区正面烏丸東入 〈担当者：秋月俊也〉  
TEL. 075-343-5656 FAX. 075-371-0458

### ミネルヴァ書房

[本社] 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1  
TEL. 075-581-0296 FAX. 075-581-0589  
[東京支社] 101-0062 千代田区神田駿河台 3-6-1 菱和ビルディング 2F  
TEL.03-3525-8460 FAX.03-3525-8461 〈担当者：青柳英孝〉

### 山川出版社

101-0047 千代田区内神田 1-13-13 〈担当者：田村 裕〉  
TEL. 03-3293-8132 FAX. 03-3292-2994

### 吉川弘文館

113-0033 文京区本郷 7-2-8 〈担当者：春山晃宏〉  
TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3812-3544

2020年1月1日発行・第247号

発行 **歴史書懇話会**

113-0033 文京区本郷 7-2-8 吉川弘文館内  
(非売品)

取扱店